

週間市場レポート (2022年4月11日~4月15日)

1) 先週の市場動向

指数名	国	前週末 2022/4/8	先週末 2022/4/15	前週末比 (%)
日経平均株価 (円)		26,985.80	27,093.19	0.40 ↗
TOPIX (東証株価指数)		1,896.79	1,896.31	▲0.03 ↘
ダウ工業株30種平均 (ドル)		34,721.12	34,451.23	▲0.78 ↘
S&P500種指数		4,488.28	4,392.59	▲2.13 ↘
ナスダック総合指数		13,711.00	13,351.08	▲2.63 ↘
ユーロ・ストックス50指数		3,858.37	3,848.68	▲0.25 ↘
S&P/ASX300指数		7,476.91	7,526.40	0.66 ↗
上海総合指数		3,251.85	3,211.25	▲1.25 ↘
MSCI AC アジア (除く日本)*		889.63	877.49	▲1.36 ↘
東証REIT指数		1,972.17	1,992.65	1.04 ↗
FTSE NAREIT All-Equity REIT 指数		937.79	927.77	▲1.07 ↘
ASX300 REIT 指数		1,627.50	1,613.70	▲0.85 ↘
グローバルREIT (除く日本)*		220.28	218.89	▲0.63 ↘
日本10年国債 (%)		0.230	0.241	0.011 ↗
米国10年国債 (%)		2.700	2.828	0.128 ↗
ドイツ10年国債 (%)		0.707	0.842	0.135 ↗
英国10年国債 (%)		1.750	1.889	0.139 ↗
ドル/円		124.34	126.46	1.71 ↗
ユーロ/円		135.30	136.73	1.06 ↗
英ポンド/円		161.85	165.15	2.04 ↗
豪ドル/円		92.71	93.52	0.87 ↗
フィラデルフィア半導体指数		3,120.16	3,028.22	▲2.95 ↘
WTI原油先物 (ドル)		98.26	106.95	8.84 ↗
CRB指数		298.21	311.92	4.60 ↗

2) 日本の株式・債券市場

≪ 株式 ≫

日本株式市場（日経平均株価）は、前週末比で横ばいとなりました。米金融政策の先行きに対する警戒感から週前半は下落し、12日（火）の終値は3月16日以来およそ1ヵ月ぶりの安値となりました。3月の米消費者物価指数（CPI）の、コア（食品やエネルギーを除く）指数の伸びが前月から鈍化し、米金利上昇にやや一服感が出たことや、円安基調が好感され、輸出関連銘柄などを中心に幅広い銘柄の買い戻しが進みました。週末は米金利上昇で前日の米国株式市場が下落した流れを受け下落し、週間では前週末比で横ばいとなりました。



出所) ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成

※現地通貨ベース *1 ▲はマイナスを表します。*2 一部海外市場はグッドフライデーのため4月14日のデータを掲載

≪ 債券 ≫

日本債券市場（10年国債金利）は、前週末比で横ばいとなりました。
3月の米CPIを受け、米国のインフレ加速への過度な警戒感が後退したことから、国内金利も低下する場面もあったものの、米連邦準備制度理事会（FRB）高官によるタカ派（金融引き締め推進派）的な発言を受け国内金利も上昇し、週間では前週末比で横ばいとなりました。



3) 米国の株式市場

≪ 株式 ≫

米国株式市場（NYダウ）は、前週末比で下落しました。
6日（水）に公表されたFOMC議事要旨を受け長期金利の上昇が続くなか、週前半は金利上昇時に割高感が意識されやすいグロース（成長）株中心に下落しました。3月の米CPIを受け、過度なインフレ懸念が後退したことで、グロース株の買い戻しが進む場面もあったものの、その後は、ニューヨーク連銀総裁が次回会合での積極的な利上げ姿勢を示すと再び下落しました。



出所) ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成

4) 外国為替市場

米ドル/円相場は、前週末比で円安米ドル高となりました。
日銀の黒田東彦総裁が「現在の強力な金融緩和を粘り強く続ける」との考えを改めて示したことから、日米の金融政策の方向性の違いが意識され、円売り米ドル買いが優勢となりました。



5) 今週の見通しについて

先週の株式市場は、FRBによる早期利上げや金融引き締めへの警戒感から、値動きの荒い展開となりました。

12日（火）に公表された3月の米CPIは前年同月比+8.4%と、およそ40年ぶりの伸びとなりました。中古自動車など一部のモノの価格下落がみられたものの、引き続きFRBが目標とする前年同月比+2.0%を大幅に超えており、市場では次回5月のFOMCで0.5%の利上げと保有資産縮小の開始が決定されるとの見方が強まっています。足元では、FRB高官によるタカ派的な発言も相次いでおり、株式市場はFRB高官の発言や長期金利に反応しやすくなっています。各種報道等によれば、ロシアはウクライナ首都キーウから軍を撤退し、今後はウクライナ東部の支配拡大に向け攻勢を開始するとみられています。欧州連合（EU）はロシア産原油の段階的な禁輸を検討しており、需給悪化懸念から原油価格（WTI原油先物）は再び1バレル＝100米ドルを上回って推移しています。

今週の株式市場は、引き続き米長期金利上昇への警戒感が上値を抑える場面があるものの、日米企業の好決算や業績見通しの上方修正への期待から上昇するものと予想します。

【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

<設定・運用>



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506

9：00～17：00（土日祝日・年末年始を除く）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>